

【研究名】：DPP-4 阻害薬の効果に及ぼす因子の検討

【目的】

DPP-4 阻害薬は、インクレチンの分解に関わる DPP-4 という酵素の分解を阻害する新規の経口 2 型糖尿病薬です。インクレチンとは、食事を摂ることにより小腸から分泌され、すい臓からのインスリン分泌を促進するホルモンです。数年前に臨床の現場に登場し、低血糖のリスクが低い、治療での体重増加がみられないなどの理由から短期間で汎用されるようになりました。しかしながら、近年 DPP-4 阻害薬を飲んで効果がある患者さんと薬を飲んで効果が見られない患者さんが存在することが報告されました。したがって、効果がみられない患者さんの背景を明らかにしていくことは、DPP-4 阻害薬の適正使用のために極めて重要であると考えられます。そこで、本研究では DPP-4 阻害薬で効果がみられない患者さんの原因を明らかにするために DPP-4 阻害薬の効果が見られなかった例を抽出しその患者さんの背景を調査します。

【研究意義】

効果がなかった患者さんの背景を明らかにすることで、今後の DPP-4 阻害薬の適正使用につながると期待されます。

【研究内容】

2011～2013 年に DPP-4 阻害薬を新規で投与した患者さんを対象に、年齢、体重、腎機能検査値、薬歴などを調査します。

【研究期間】

2014 年 3 月～2015 年 3 月の 13 ヶ月を予定しています。

【患者さんの個人情報の管理について】

厚生労働省「免疫研究に関する倫理指針」に基づいて患者さんのプライバシーを守るよう努めています。結果の発表や出版に際しては個人が特定できるような情報は記載しませんので、患者さんの不利益となることはありません。

【研究実施体制】

愛媛大学医学部附属病院 薬剤部

教授 荒木 博陽

講師 田中 亮裕

副部長 田中 守

薬剤師 武市 佳己

松山大学薬学部

教授 難波 弘行

特任講師 高取 真吾

学生 濱田 由貴奈

**【研究実施体制】**

DPP-4 阻害薬は高脂血症がある患者さんには血糖コントロールが不良になる傾向にあることが示唆されました。